

C) 普及啓発等を通じて新たな拡散を防止する種類

メリケントキンソウ

キク科 *Soliva sessilis*

原産地：南アメリカ

鹿児島県条例：指定外来動植物

特徴

キク科の越年生草本。茎は地に接し、高さは5cm程度。駐車場やグラウンドなどに侵入している様子がよく見られる。最大の特徴である果実のトゲは、刺さると血が出るほど痛い。

葉 : 葉は羽状に切れ込みが入る。

花 : 春に花を咲かせる。直径7~10mm程度の小さな花を葉の根元あたりにつけるため、あまり目立たない。果実はカブトガニを思わせるような形でトゲがある。

繁殖 : 種子繁殖。果実にあるトゲが動物の毛に絡まるほか、靴底、車のタイヤに刺さるなどして分布を広げる。



影響 : 果実のトゲによる人体への被害が懸念される。またしばしば密な群落に発達することから、同じような環境を好む在来種と競合することもある。

侵入状況 : 奄美大島各地のグラウンド、駐車場、草原などで侵入が確認されている。

対策状況 : 未だ具体的な対策は実施できていない。

防除のコツ : 種子がつく前の防除作業が安全で効率も良い。また場所によっては除草剤の使用も効率的。草刈り機での防除は茎の断片や種子を拡散するため不向き。

リンク : 鹿児島県 メリケントキンソウ撲滅対策マニュアル

https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/gairai/documents/40664_20200604220235-1.pdf